

受賞作品

【一般建築部門】

《最優秀賞》

まちの駅（旭座+付帯施設）

設計者：(株)未来プランニング

浜岸 吉満

京福コンサルタント(株)

須田喜代司

施工者：(株)松岡工務店・(株)和晃建装



【住宅部門】

《最優秀賞》

安島の新屋

設計者：(株)ヒュッカ 丸山 晴之

施工者：サカイ建設不動産(株)



《優秀賞》

ポケット・デイリーストアー

設計者：N建築計画 永宮 勝利

施工者：(株)松尾工務店



《優秀賞》

板倉邸

設計者：アトリエ721 山 博充

施工者：(株)ハウジングサービス



《優秀賞》

さくらstudio

設計者：haws 建築設計事務所

原田 学

施工者：サカイ建設不動産(株)



《優秀賞》

えどめしものいえ

設計者：伊藤瑞貴建築設計事務所

伊藤 瑞貴

施工者：(株)深谷



《奨励賞》

緑が丘保育園

設計者：(株)ジャクエツ環境事業

(有)赤土善蔵アトリエ 赤土 善蔵

施工者：(株)キハラコーポレーション

《奨励賞》

鯖江公民館

設計者：(株)J・D設計 橋本 正一

施工者：サイト建設・水上建設・サイトーバンキン
特定建設工事共同企業体

《奨励賞》

きんせんクリニック

設計者：(株)走坂建築設計事務所 水上 諭

施工者：村中建設(株)

《奨励賞》

あおいの家

設計者：haws建築設計事務所 原田 学

施工者：サカイ建設不動産(株)

《奨励賞》

K-house

設計者：小笠原弘建築計画 小笠原 弘

施工者：(株)活衛工務店

第4回ふくい建築賞 2017 報告

ふくい建築賞実行委員会

瀬戸川 信之

建築士会・建築士事務所協会・JIA建築家協会の設計3団体が主催し、福井県の建築業界全体の人材育成を目的に創設された「ふくい建築賞」は、今回で4回目の開催となります。県内建築関係9団体の協賛と県・福井市をはじめマスコミ各社の後援をい

ただきましたこと、感謝申し上げます。

本年度は6月から8月までの応募期間に、一般建築部門10点、住宅部門8点の合計18点（昨年19点）の作品応募がありました。9月14日、建築士事務所協会にて一次書類審査が行われ、水野一郎氏（金沢工業大学教授）、今回から新しく加わりました五十嵐啓氏（福井工業大学准教授）、西本雅人氏（福井大学講師）の3名の審査員による慎重な審査と議論を経て一般6点、住宅5点の計11点が二次審査対象

作品に選ばれました。

二次審査は10月20・21日の2日間にわたり審査員が現地を訪れ、直接設計者にヒアリングを行い、その後の審査の結果、一般部門と住宅部門で計6作品が最終審査対象作品に選ばれました。また、本年度から新たに設けられました「奨励賞」作品として「緑ヶ丘保育園」「鯖江公民館」「きんせんクリニック」「あおいの家」「K-house」の5点を選考しました。

11月18日（土）県立図書館多目的ホールにて、最終審査会が開催されました。ノミネートされた6作品の設計者によるプレゼンテーションを経て、審査員により評価と課題が熱心に議論されました。その



高嶋 猛 氏による講演会

結果、一般建築部門では「まちの駅（旭座+付帯施設）」、住宅部門では「安島の新屋」がそれぞれ名誉ある最優秀賞に選ばれ、優秀賞に「ポケット・デリーストアー」「さくらstudio」「板倉邸」「えどめしものいえ」の4点が決定しました。

昨年同様最終審査会にふさわしい熱気に包まれながら、審査員と会場で見守る80名余りの聴講者との間に緊張感も伝わってきました。

このふくい建築賞が永く続けていけるよう皆様のご理解と温かいご支援を心よりお願いします。会員のみならず、2018年も作品の応募参加をお待ちいたしております。



授賞式記念撮影

■ 第4回ふくい建築賞2017 総評 「対話の積み重ね」

審査委員長 水野 一郎（金沢工業大学 教授）

評価の視点

ふくい建築賞のスタートから4年目、賞の方向についての私の模索は続いています。今回で、少し福井らしさが見えたように思います。芽は第1回から感じていましたが、心に響いた作品、あるいは現場で確かめたいとか施主に会ってみたいとかの作品をなぜだろうと辿っていくことで見えてきた傾向です。

それは新しい空間や形態への挑戦というデザイン主導の視点ではなく、立地環境の読み取りからのアイデア、施主との対話の積み重ねからのプラン、施工者との共同作業による形態など、建築が生まれてくるプロセスやプログラムを評価するという視点です。

第4回の評価

一般部門の「まちの駅」は倉庫としてボロボロであった旭座を見事に再生した建築士とそれを支えた市民や行政の営み、そこに商業施設とイベント広場をもつ都心にぎわい空間を併設させたアイデア、そ

して生まれた建築と広場が実体としてきちんとありました。そういったソフトからハードに至る全体が評価されました。「ポケット・デリーストアー」も住宅中心のまちなかに魅力あるスポットが施主と建築家の力量により生み出されていました。「さくらstudio」でもボロボロの小住宅を自らの設計スタジオとして生き返らせた建築家としての姿勢が評価の大きな要素でした。

住宅部門の3点でも立地環境や施主家族の個性などそれぞれの違いが鮮明になる解を導き出していることが大きく評価されました。3点共通であったのは、リビングルームと2階廊下を吹抜けの一体空間にすることで、いつも家族はつながっているという説明でした。またいずれも塀がなく、家が開かれていて、周辺環境は安心安全と位置づけていることも気付きました。

こうした家作りに見える姿勢は福井らしさではないかと思います。福井県には堅実で落ち着いた社会が続いており、安心安全で良好な環境の地域があり、ご近所に親しみ合う人々がいて、そして核に支え合う絆の強い家庭があります。その存在は様々な指標で評価される「住み良さランキング」で福井県は常

に上位にあることに表れています。

「ふくい建築賞」の審査ではそうした福井県の良さを再確認すると共に、福井の建築家達が福井県の良さを育む力にもなっているのではと評価していま

■ 第4回ふくい建築賞2017の審査を終えて

審査委員 五十嵐 啓 (福井工業大学 准教授)

第1回目より3年間審査委員を務められた吉田純一先生、高嶋猛先生に代わり、福井大学の西本先生とともに審査委員をお請けしました。大変微力ではありますが、両先生の築いてこられた精神を受け継ぎ、精一杯務めさせていただくつもりです。

審査委員をさせていただく時には、毎回審査基準をどこに置くかに大変悩ましい時間を費やす。今回の審査にあたり、自分なりに設定した基準は以下の通りとした。

「ふくい」と名のつく賞であることから、その建築が地域の暮らしや景観、歴史や文化に対し何らかの積極的な関係性（それが肯定的であっても批判的であっても）を持ったものであること。もうひとつは、その建築に関係して行われる日々の営みに対して、刺激なり歓びなりをもたらしているものかどうか、という2点を求めたいと思った。

実施物件であるから簡単にできることではない要求かも知れないとは思いつつ、そこに挑む姿勢もった作品だからこそ「賞」の名に値するのではないかと思う。

一般建築部門での応募作品は10点であった。その中から緑ヶ丘保育園、鯖江公民館、まちの駅（旭座+付帯施設）、ポケット・デイリーストアー、さくらstudio、きんせんクリニックの6作品が2次審査に進み、2日間の現地審査を経て、まちの駅（旭座+付帯施設）、ポケット・デイリーストアー、さくらstudioの3作品が選考された。規模のみならず作品の諸条件が全く異なる中での選考に本当に悩んだが、現地審査でお聞きできた使用する立場の方々からの意見は大いに参考になった。この賞が設計者、施工者、施主のそれぞれに与えられるという意味合いを尊重しての評価と考えている。

最優秀賞の「まちの駅（旭座+付帯施設）」は、他の作品と大きく背景が異なっていた。明治期の木造建築物の保存再生には、最終的に関わった設計者以外にも多くの方々の献身的な努力と深い洞察があったからこそであり、意義深いプロジェクトである

す。これからも設計者として人々に、地域社会に、自然環境に寄り添いながら、生き生きとした空間や形態を有する建築を造り続けられることを期待します。

と評価した。地方都市の活性化を担う、重要でかつ継続的なかわりが求められる施設である。運営というソフト面の充実があってこそその小浜市の活性化であり、今回の受賞が少しでもお役に立てれば幸いである。ただ、建築計画として見た時には、広場を含めた3ゾーンの連携に関して日常への視点に対する議論がやや疎かになっていたのではないかという印象が残った。

優秀賞の「ポケット・デイリーストアー」では、商業施設がもつ公共としての役割について考えさせられた。周辺環境への細かな配慮から生み出された建築形態と商業という生業をどのように折り合いをつけていくのか、「まちの公共空間」として役割をよく認識された施主との出会いが幸運であったと感じた。今後もこの建物を中心として、建築と周辺環境の相乗効果がより高まっていくことを期待できる点を評価した。

同じく優秀賞の「さくらstudio」は、こちらも既存の木造の再生であるが、逆に設計者の想いを存分に詰め込んだ作品との印象をうけた。昨年の住宅部門の最優秀賞作品同様、設計者が施主も兼ねてしまうと「ずるい」感じもするのだが、設計者の自問自答から生まれた、濃密で自由な作品に仕上がっている点を評価した。道路側に増築されたテラスが大きな変化をもたらし、空き家リノベーションとして成功している。公開審査時に「発展途中」ということばをお聞きしたと記憶している。今後も様々な実験やトライがこの建物で続いていくのだろうと考えるとその変化自体も楽しみである。

その他、奨励賞の「きんせんクリニック」は、前面道路からの視線の遮断と内部における開放感の演出が印象的であった。しかし、周辺環境への働きかけにやや物足らなさを感じ残念ながら他の作品と差がつく結果となった。

住宅部門は8作品で昨年度よりさらに1点減となったが、「板倉邸」「えどめしものいえ」「あおいの家」「安島の新屋」「K-house」の5作品が2次審査に進み、最終的に「板倉邸」「えどめしものいえ」「安島の新屋」の3点が選出された。2次審査で現地審査をさせていただいたが、メッセージ性、

立地、施主の個性、新規性など、いずれも大変特徴のある作品との印象であった。

最優秀賞「安島の新屋」は、周辺環境との伸びやかな繋がりの中で力強く建ちあがるフォルムが印象的であった。内部においても吹抜けを持つ居間と各部屋の関係では、内向きと外向きのバランスが拮抗している。古くからの安島集落のデザインソースを現代的デザインに組み込むこと、新旧の建具の採用、外壁材の選定などに数多くの挑戦する姿勢とそれをいい意味で楽しむ施主との関係が評価につながった。

優秀賞の「板倉邸」はまさにその重厚さから「邸」であり、施主自らが家づくりに深く関わりを持ち、それを専門知識や技で支え導く設計者、施工者の関係が感じられた作品であった。規模的には大きな家ではあったが、細部までこだわりのデザインが施されており、施工者の苦勞がしのばれた。

■ 第4回ふくい建築賞2017の入賞作品の講評

審査委員 西本 雅人 (福井大学 講師)

一般建築部門の講評

一般建築部門での現地審査のメモを振り返ってみると、内部と外部の空間のバランス、スケール感、ディテール、素材の選定、日常の使い方、施設ごとの計画の良さ、図面で得た印象の確認、図面では読み取れなかった良さがいいかを自身の審査基準にしたと思います。また、応募書類では分からない点を現地で発見したいと思って審査に臨みました。

①まちの駅 (旭座+付帯施設)

広場を中心に旭座と商業施設が対峙するように計画されていることが良かったです。ただ、2つの建物の関係性がほとんどみられなかったことはもったいなかったです (元々別の計画であったため設計者の及ぶ範囲ではなかったかもしれませんが)。旭座を再現するにあたっての素材の選定や当時のディテールの確認などは相当な労力がかかったことと思います。そのような労力をかけてまで、新しい地域の中心となる広場に残していく意識の強さが、福井の地域的な側面を表現していると感じました。

②ポケット・デイリーストアー

お施主さんの性格をそのまま建築で表現したかのような楽しげな外観の建築でした。当時は周辺になに

同じく優秀賞の「えどめしものいえ」では、応募資料にも設計者の環境への真摯な取り組みが目に見える形で表現されており、今後の住宅設計の目指すべき方向を示してくれていた。詳細に検討された結果の開口部の位置や高さなどは、住宅設計だからこそ必要な取り組みではないだろうか。住居プランや周辺環境との関係のつくり方などは、市街地に建つ住宅のひとつのカタチと言える。ここからの今後の変化がまた楽しみである。

第4回の審査をさせていただく機会を得て、改めて建築の担うべき役割について、また設計者として取り組むべき姿勢について考える時間をいただいたと思う。また、審査に至るまでの細部の行き届いた段取りや準備など、事務局を担当された実行委員会の皆さんには本当にお世話になりました。改めて御礼を申し上げます。

もない住宅地であった中で、あえて一体型で大きくせず周辺に建つ今後の住宅に合わせて分棟型+切妻屋根とすることで周囲と違和感のないスケールに仕上がっていました。

③さくらstudio

福井県でも空き家は増えており、空き家をどうするか課題が大きいです。その中でこの作品は自身の設計事務所へリノベーションすることで空き家の利用方法を表現していることが素晴らしいと思いました。古い住宅の面影が良い意味で感じられなく、今後の改修のモデルになると思いました。

④緑ヶ丘保育園

お寺に併設する保育所ということで狭い崖地のような部分にうまく計画されていました。高台にある3階のホールからの眺望は、山と海が同時に見える美しいものでした。保育園の特性上、外観は楽しい表情になりがちですが、それがお寺や周辺とどのような関係だったのか読み取りにくかったです。

⑤鯖江公民館

4層の建物に5種類の屋根や庇が積層された特徴のある外観でした。このようなデザイン性のある外観は福井でも特色ある建築ではないかと思います。現地審査ではこの屋根の形に着目して見学したのですが、内部空間の開口がこの屋根の形を優先して限定されてしまう部屋もあり、このような屋根の形を取り入れた内部空間の構成の難しさを感じました。

⑥きんせんクリニック

動線計画がうまくまとめられたクリニックでした。プライバシーに配慮するとあまり開口は設けられない施設種ですが、そこはうまく中庭などを配置し外部とのつながりがどの場所からでも感じ取れることにプランニングのうまさを感じました。

以上の現地審査を行わせていただき、結果的に①～③の作品が3次審査に進みました。①や③には古いものを今にいかんに伝えていくか、②はこれから開発される土地にいかんに計画するかなどの地域に対するメッセージが強く計画に表れていたように思います。特に①は街に賑わいを取り戻す地域的な課題の解決案を提示できたことが最優秀賞につながったと思います。

住宅部門の講評

住宅部門では、一般建築部門と同じような現地審査のメモが残っているのですが、住宅部門を見させていただくときは設計者とお施主さんとの距離が近い分、家づくりのストーリー性やお施主さんとの協働も含めて審査をさせていただきました。良い住宅には住み手の工夫や思いが表現されていると思ったからです。

①安島の新屋

地域の若年層の離れに危機感を覚えたお施主さんがこの海辺の厳しい土地での暮らし方を模索する住宅でした。書類審査では外観の色むらも見られておりあまり良い印象ではなかったのですが、居間やキッチン、廊下などのスケール感のメリハリや田の字型を基本とする空間構成の明瞭さなど現地調査でこの作品の良さを発見することが多かったです。外観の色むらについても古びていく姿が良いとお施主さんの要望だそうで、住宅作品だけではなくこの土地での暮らし方を体現しているように感じました。

②板倉邸

2013年から丸3年かかったプロジェクトで、山で材料の切り出しから始めたことがスケールの大きさを感じました。福井の林業を支えていく上でもこのプロジェクトが一つのモデルになればとも思います。わずかに角度が振られた配置は周囲の公園や方角に配慮した結果で、現地でも周辺との関係性が伝わってきました。

③えどめしものいえ

環境性能のシミュレーションを設計時から綿密に行い、北陸に住まいながらもパッシブハウスとして暖房を極力必要としない住宅として計画されていました。ふくい建築には冬の過ごし方が必然的に問われることと思いますが、この住宅はそれを明確に解いていました。冬を越してから応募されたため、シミュレーションの結果が体験談として聞くことができたことも良い評価につながりました。

④あおいの家

2世帯であるため3本の軸線によって構成されている住宅でした。広めのテラスの存在感が大きく、庭はご主人による手入れが行われており、住宅の中心となっていることがうかがえました。「庭ーテラスー居間ー吹き抜けー2階居室」への連続性がとても気持ちのよいものでした。2階の床仕上げの施工はご家族もご参加されたとのことで家づくりを楽しんでおられる様子が現地でも伝わってきました。

⑤K-house

土地探しから一緒に行ってきたプロジェクトで今回は唯一のRC造打ち放しの住宅作品でした。北側のエントランスはガラスのファサードで構成されている一方で、お施主さんの要望から生活感をあまり見せないように各居室は中庭のテラスを中心に向かって開いており、内向きに開く空間構成のバランスの良さを感じました。

以上の現地審査を行った結果、①は安島での暮らし方、②は住宅プロセス、③は環境性能というような住宅の質に加えてソフト的な提案がより優れたことが、3次審査に進むことができたのではないかと思います。結果的には①が最優秀賞になりましたが、この土地でしか創れない住宅を提案したことが賞につながったと感じました。

今回、初めて審査を務めさせていただきました。応募してくる作品はどれも自信に満ちており、その中から作品を絞っていくことはとても神経の使う作業でした。審査結果に対していろいろご意見があるかと思いますが、そのご意見を頂きながら「ふくい建築とは何か」について今後も考えていきたいです。



まちの駅(旭座+付帯施設)

設計監理：旭座 (株)未来プランニング
付帯施設 京福コンサルタント(株)
施 工：旭座 (株)松岡工務店
付帯施設 (株)和晃建装

建築位置：小浜市小浜白鬚
工 期：'15年6月～'16年5月
構造規模：木造・地上2階、鉄骨平屋
敷地面積：3,924㎡
建築面積：旭座 589㎡ 付帯施設 654㎡
延べ面積：旭座 665㎡ 付帯施設 524㎡



放生祭りの出し物が一堂に会して披露できるように中央広場を設けて旭座棟と付帯施設の位置が決定されました。回廊は広場に対して開放的に、付帯施設は鉄骨平屋でガラス面を多用して回廊と広場との連続性をもたせている。

旭座を中央に復原し、北に楽屋棟、南に便所棟を新築し関連性を高めています。西側は準防火地域の木造文化財故に防火上隣地境界より3m以上確保し、出演者や道具類の出し入れも容易に出来るよう、車の通行を可能にしています。



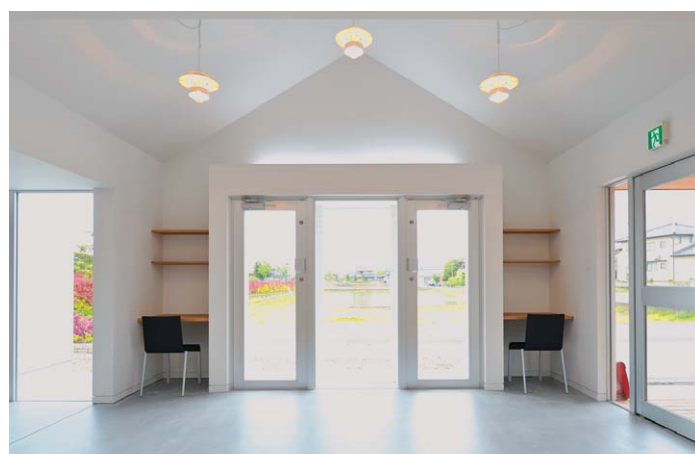
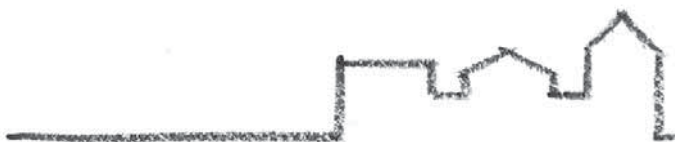


ポケット・デリーストアー

設計監理：N建築計画
施工：株松尾工務店

建築位置：越前市村国
工期：'09年10月～'10年6月
構造規模：木造・地上2階
敷地面積：426㎡
建築面積：150㎡
延べ面積：160㎡

閑静な街に位置する婦人服衣料品を販売する「ポケット・デリーストアー」の店舗建築。『どのような街をつくり 景観をつないでいくか』を想像しながら計画を進めた。建物は、威圧的にならないようになるべく高さを抑え、周辺から眺めるときに空が広く感じられるようにした。3つの異なる屋根勾配をもつ小さなボリュームに分節し、リズム感良く賑わいのある街並みを形成した。各ボリュームは、室内外ともに違うデザインの性格を持ちつつも関連性のあるバランスとなるように心掛けた。『ひとつの小さな建築でも まちづくりに関わっていく』という思いは、施主様と設計者ともに共通の大きなテーマであった。





さくらstudio

設計監理：haws建築設計事務所
施 工：サカイ建設不動産㈱

建築位置：福井市
工 期：'14年6月～'14年10月
構造規模：木造・平屋
敷地面積：205 m²
建築面積：69 m²
延べ面積：74 m²

場所は旧事務所と自宅のちょうど中間、バスの通る桜並木に面した北西の角地です。毎年春は美しい桜の花を咲かせ、市民を楽しませてくれる場所。

ここに、昭和43年に建てられた平屋の住宅が住む人もなくずっと空き家でありました。この持ち主がたまたま見つけたことで交渉し、リノベーションして我々の新事務所として使うべく、中古住宅として買い取りました。

現状は和室と小さな客間、DKのある小住宅でした。廻りは草ボウボウでご近所迷惑な感じになっていましたが、ここに作りたかったのは古くてもしっとり落ち着ける緑に囲まれた空間。

そこで、CG作成と実測を繰り返して、実務場所と打ち合わせ場所のシミュレーションを重ねて、出来ることは極力自分たちで工事で、コストを抑えました。

できあがった建物は、築40年を経て、再度新たな命を吹き込まれました。それまで、汚れた空き家として、まちの中で忘れられた存在でしたが、新たに人々の記憶の風景となることでしょう。

ここで建築設計の仕事を通じて、古い木造建築の再生を実際に見ていただき、可能性を感じてもらうことが出来る。そんな建物が実現できました。





安島の新屋

設計監理：(株)ヒヤッカ

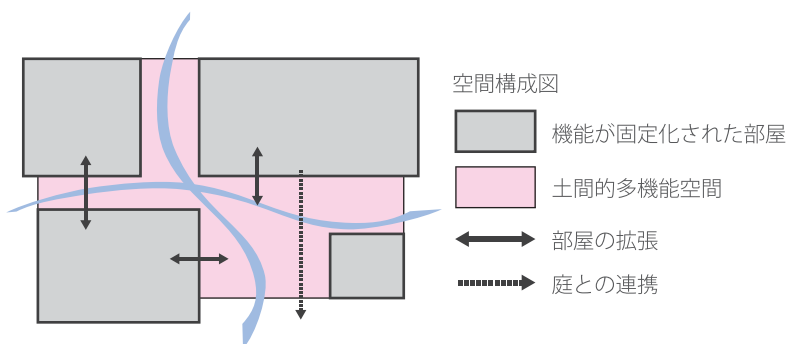
施工：サカイ建設不動産(株)

建築位置：坂井市三国町安島
 工期：'14年6月～'15年4月
 構造規模：木造・地上2階
 敷地面積：266㎡
 建築面積：105㎡
 延べ面積：175㎡

雄島の対岸に位置する安島。

沿岸の旧集落では建替えが困難な為、すぐ近くの森林地域が切り開かれ、地域住民の為の住宅団地が整備されている。その中の約半分の敷地には既に住宅が建っているが、その景色は旧集落の面影を残さず、どこにでもある郊外の新興住宅と同じ様相を示している。そのような中で、施主と当事務所が求めたのは、旧集落の建築が持つ伝統的な要素でした。景観をつくる外部構成は、この地の潮風に対抗する為、地域の伝統的建築に習って屋根は瓦。外壁はサワラ板。

そして、庭と近い内部空間、自然の風を感じながら生活したいとの要望に対して、小さな部屋の集積とその連続性を確保。4つの木箱（機能が固定化された部屋）を半外部的空間（廊下や土間の空間といった余白）でつなげることで、庭との連携や四方の通風の確保し、古民家が持っている部屋の拡張性を、ここに実現している。





板倉邸

設計監理：アトリエ721

施工：(株)ハウジングサービス

建築位置：鯖江市丸山町

工期：'14年10月～'15年10月

構造規模：木造・地上2階

敷地面積：1,222 m²

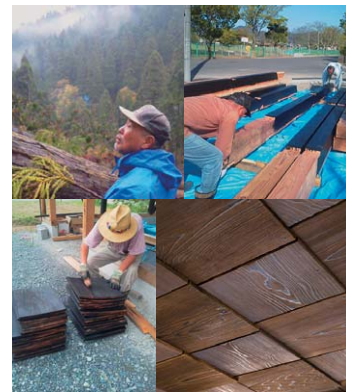
建築面積：151 m²

延べ面積：231 m²

板倉様は、ご自身の山を持っておられ、その山の木を使っでの住まいを提案したところ承諾され、この計画が始まりました。

山より製材した杉材は、骨組みから仕上げ、建具まで幅広く使いました。またその仕上げも塗装をはじめ、浮造りにしたり焼いたり、それを行ったのは、施主、設計者及び監督でした。

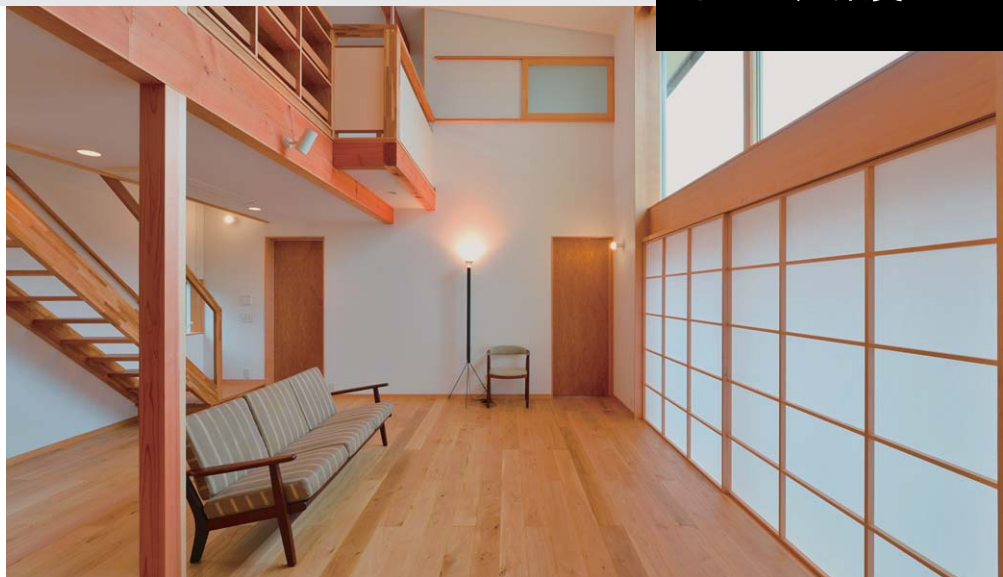
施主もほとんど毎日来られ、私も後半戦には、入り浸る状態でした。その中で、施主とどうするかを一緒に考え、それを大工さん、左官屋さん達とともに造っていく過程は物づくりの喜びを感じるかけがえない時間でした。



えどめしものいえ

設計監理：伊藤瑞貴建築設計事務所
 施工：(株)深谷

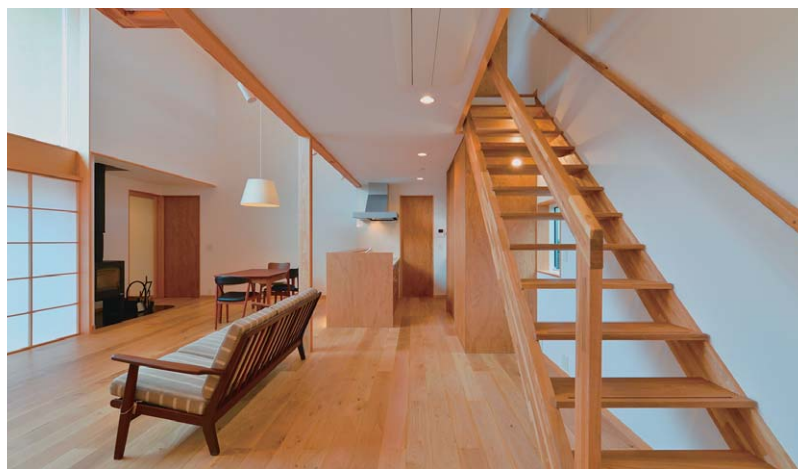
建築位置：坂井市春江町江留下
 工期：'14年7月～'15年1月
 構造規模：木造・地上2階
 敷地面積：498㎡
 建築面積：168㎡
 延べ面積：211㎡



福井県坂井市春江町に建つ、ご夫婦とお子様2人と猫のトメ助が暮らす専用住宅の計画です。敷地南側の前面道路は、一見交通量の少ない道路に見えるが、平日はエンゼルランドへ向う大型バスが行き交い、週末は家族連れの乗用車が行き交う交通量の多い道路となっている。また、敷地南側はゲームセンター（現在は文具店）、敷地東側はスーパーの社員駐車場、敷地西側・北側は住宅が隣接しているため、安易にまちに対して開くことはできず、中庭型の配置計画とした。しかし、町に背を向けたような閉ざされた佇まいの住宅は不適切と考え、町と程よい距離感を保ちながらも町と調和した佇まいの住宅を目指した。また、パッシブハウスとしても機能するように、日射しや風の流れを検討し、建物のプランニングをおこなった。

内部では、周辺環境から紡ぎ出された中庭に隣接するように吹抜けのあるLDK空間を配置し、その空間に隣接するように様々な居場所や個室を配置していった。

「町とのつながり」「自然とのつながり」「家族とのつながり」「時間とのつながり」「つくる人とのつながり」等の様々なつながりをひとつひとつ丁寧にデザインしていくことで、経済の発展成長のなかで失ってしまった本質的な豊かさを取り戻し、人間の初源的な楽しさのある住環境を提案したいと考えている。



【一般建築部門】

奨励賞 緑が丘保育園



設計監理：(株)ジャクエツ環境事業
(有)赤土善蔵アトリエ 赤土善蔵
施 工：(株)キハラコーポレーション

【住宅部門】

奨励賞 あおいの家



設計監理：haws建築設計事務所 原田 学
施 工：サカイ建設不動産(株)

奨励賞 鯖江公民館



設計監理：(株)JD設計 橋本正一
施 工：サイト建設・水上建設・サイトーバンキン
特定建設工事共同企業体

奨励賞 K-house



設計監理：小笠原建築計画 小笠原 弘
施 工：(株)活衛工務店

奨励賞 きんせんクリニック



設計監理：(株)走坂建築設計事務所 水上 諭
施 工：村中建設(株)